

表参道日記 151

4年間と90分以上

世界中がサッカーに注目している。

そこで「にわかファン」である小生においては、中田英寿や本田圭佑などの有名選手は出場していないし、コスタリカはともかく、ドイツとスペインというヨーロッパの強豪国には流石に勝ち目はないだろうと、さほどの胸の高まりは感じていなかったが、始めてみると初戦がすご過ぎた。

かつての同盟国ドイツとの闘いであったが、はるかに格上のチームに対して、交代で入った選手達が大活躍を果たし見事な逆転勝利を収めた。

一人で興奮し、アデイシヨナルタイムは何とか無事に試合が終了するようにと、ベッドから飛び起き、正座で祈りに入った。

サッカーに限らず、プロスポーツ選手が活躍できる年限は短い。

オリンピックも同様だが、4年置きに行われる国際試合に5回も6回も続けて出場できるアスリートは、そうはいない。

実際に今大会においても日本人選手のうち半数以上は初出場と知った。幼いころからサッカーボールを蹴り続け、鍛え上げられた肉体を持つ屈強な男たちでも体力の限界を知らなければならぬのであろう。

そこで一般社会に置き換えてみると、いかなる職種においても成長、成熟、そして退化が存在するが、大人が同じ仕事を繰り返し返している限り4年で仕事の成果が大きく変わることはないと思う。

とはいえ、最近、新型コロナウイルス感染症を挟んで、久しぶりに会った年長者の容姿、立ち振る舞いを見るにつれ、この人、弱ったなあと感じざるを得ないシーンにしばしば遭遇する。4年も経ってないのに。

週刊誌の健康関連記事を見ると、そのタイトルが「80歳の壁」から「90歳の壁」「100歳の壁」にとハードルが高まっている。

そういえば、サッカーの試合時間は90分プラス追加タイムだ。まだまだ人生を楽しむためのものだ。

人の一生をサッカーに例えれば、試合中のメンバーチェンジは存在しないが、広大なピッチの中、いつも一人の選手が全速力でボールを支配しているわけではない。

自身の現在、後半戦であることは間違いないが、まだまだパスも欲しいところで上手に戦い切りたいものだ。

そして4年後を見据えて生きていくのも悪くない。

文

伊藤公一

text by Kouichi Ito

それにしても解説者としてテレビ出演するプロサッカー選手OBたちは、なぜに皆、あか抜けていて格好いいのか。
元々素敵だったのと、引退後の人生も輝いているからであろう。

Profile

1958年生まれ。伊藤病院3代目院長。
北里大学医学部卒業、東京女子医科大学大学院修了。医師になって以来、国内外にて一貫してバセドウ病、橋本病、甲状腺癌など甲状腺疾患に対する診療と研究にひたすら従事。
東京女子医大、筑波大大学院非常勤講師。日本医科大学、了徳寺大学客員教授。
日本内分泌外科学会、日本甲状腺外科学会理事。厚生労働省診断群分類調査研究班班長。
伊藤病院 <http://www.ito-hospital.jp/>
名古屋甲状腺診療所（名古屋分院）<http://www.kojin-kai.jp/nagoya/>
さっぽろ甲状腺診療所（札幌分院）<http://www.kojin-kai.jp/sapporo/>

